

NEWSLETTER

CTC教育サービスの最新情報をお届けいたします

2024. 夏号

新コース

ゼロから始める生成AI
Microsoft Copilot for M365
ユースケース / プロンプト作成
Power Automate
業務自動化入門 / プロセス作成
Power Apps
業務アプリ開発入門 /
キャンバスアプリの作成
Cisco Data Center / Juiper

特集

Power Automateを使用して
業務を効率化しよう

コラム

クラウドデータレイクの魅力



AWS認定講師 土屋 大輔 選出!

2024 Japan AWS All Certifications Engineers

AWS認定講師である土屋大輔がアマゾンウェブサービス(AWS)「2024 Japan AWS All Certifications Engineers」に選出されました。

「2024 Japan AWS All Certifications Engineers」とは、AWS Partner Network (APN)に参加している会社に所属しているAWSエンジニアを対象にした日本独自の表彰プログラムで、「AWS認定資格を全て保持している」AWSエンジニアが対象となっています。(※全てとは、選出時点で計12種の対象資格を指します。)

AWS認定資格は、アーキテクト、デベロッパー、および運用担当者など幅広い役割と、特定の技術分野の専門知識を認定する資格です。「AWS認定資格をすべて保持する事」の難易度は高く、AWSに関する知識レベルの高さの証明となります。

土屋講師 コメント

昨年に引き続き「APN ALL AWS Certifications Engineers」に認定され、大変嬉しく思っております。弊社では、技術習得に役立つAWS認定コースを幅広く実施しており、資格取得にもお役立ていただける内容となっております。ぜひ皆様のご受講を心よりお待ちしております。

AWS 認定トレーニング 好評開催中!

<https://www.school.ctc-g.co.jp/amazon/>

関連コース

Python・ネットワーク講師 林田 圭史 レビュー協力 「Pythonとネットワーク自動化基礎検定」公式テキスト

インフラエンジニアに人気のコース「Pythonによるネットワーク運用自動化」シリーズの登壇講師である林田圭史が、マイナビ出版「Pythonによるネットワーク自動化」のレビュー協力で参加いたしました。

本書は、「Pythonとネットワーク自動化基礎検定」の公式テキストで、ネットワークエンジニアやシステム管理者を対象に、Pythonを用いたネットワークの自動化について解説した実践的な教科書です。

Python によるネットワーク運用自動化入門

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/AD081.html>

Python によるネットワーク運用コンフィグ編

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/AD082.html>

関連コース

CTC教育サービス

IT・技術研修ならCTC教育サービス
これから学ぶ人も、資格取得を目指す人も、最適なカリキュラムを選べます。

CTCテクノロジーのオリジナルコースやベンダー認定のコースなど、500以上の公開コースを定期開催しております。Webサイトでは、様々な角度(分野/ベンダー名/プロダクト名/資格/レベル/キーワード)から検索でき、スキルアップへの最適なプランを見つけ出すことができます。ますます活躍が期待されるエンジニアのスキルアップをCTC教育サービスは全力で応援します。



CTC教育サービス
<https://www.school.ctc-g.co.jp/>

新コース

ぞくぞくリリース！

最新のコースリリースをお届け！
コースの詳細・開催スケジュール・受講お申し込みは
CTC教育サービスwebサイトをチェック！
<https://www.schoo.ctc-g.co.jp/>

※記載されている各開催日は2024/7/12現在の情報です。

初回開催
7/22
(月)

基本から実践まで、生成AIを楽しく使いこなすための入門ガイド

ゼロから始める生成AI

(CTCTオリジナルコース)

コースコード LT101 価格¥59,400(税込) 期間 1日間 (09:30~16:30)

このトレーニングコースは、生成AIについて学び始めたばかりの方向けにデザインされています。生成AIと聞くと難しそうですが、このコースではやさしい言葉で生成AIの基本から、ちょっとした実践までを楽しく学ぶことができます。生成AIがどうやって働くのか、自分で生成AIを使ってみたいけれど何から始めればいいのか、そんな疑問に答えるコースです。

CTC LT101



注目の 生成AI を学ぶ！
Microsoft Copilot 認定コース！

初回開催
9/5
(木)

経営幹部、営業、マーケティング、財務、IT、人事、業務の7つのユースケースを学ぶ

MS-4004 Copilot for Microsoft 365 のユースケースを使って従業員を強化する

(Microsoft認定トレーニング)

コースコード P805/P806 価格¥44,000(税込)
期間 0.5日間 午前開催 9:30~12:30 / 午後開催 14:00~17:00

Copilot for Microsoft 365 の概要を紹介した後、経営幹部、営業、マーケティング、財務、IT、人事、業務の7つのユースケースに関連する一連のデモンストレーションを行います。さまざまな Microsoft 365 アプリ (Word、PowerPoint、Outlook など) で Copilot を使って、一般的なビジネス関連タスクを完了させるデモンストレーションをお見せすることで、Copilot for Microsoft 365 でどのようなことができるか、理解を深めて頂きます。

CTC P805



初回開催
7/30
(火)

Microsoft 365 アプリケーションでCopilot(副操縦士)をより効果的に利用する方法を学ぶ

MS-4005 Microsoft Copilot for Microsoft 365 に対して効果的なプロンプトを作成する

(Microsoft認定トレーニング)

コースコード P807/P808 価格¥44,000(税込)
期間 0.5日間 午前開催 9:30~12:30 / 午後開催 14:00~17:00

このコースでは、Microsoft 365 アプリケーション (Word、Excel、PowerPoint、Teams、Outlook、OneNote、Chat) を対象に、コンテンツの作成、簡略化、変換、編集を行うための効果的なプロンプト作成方法を学びます。最良の結果を得るには、明確な目標、コンテキスト、ソース、期待することをプロンプトで提供するのが重要であることを学習します。各アプリケーションの実践的なシナリオを通じて、業務効率を大幅に向上させるスキルを習得します。

CTC P807



初回開催

7/19
(金)

クラウドフローとRPAで業務効率化しよう！ Power Automateによる業務自動化入門 (CTCTオリジナルコース)

コースコード P606 価格¥77,000(税込) 期間 1日間 (09:30~17:00)

Power AutomateやPower Automate for DesktopはMicrosoft Power Platform製品の中に含まれる業務の自動化や効率化が行えるツールで、ノーコード/ローコードで使えるためプログラミングの知識がない人でも簡単に導入していくことが可能です。

本ツールにより、繰り返し行っている単純作業、Excelへの転記作業、ブラウザへの入力作業などを、ミスなく自動で行わせることができます。例えば「メールに添付された見積ファイルに、受信日を付けて保存する作業が手間」、「有休申請や備品持ち出し申請がメールでのやりとりで、承認にも時間がかかる、どうにかしたい」、「Excelに記載されている内容をWebフォームに入力しなければいけない、件数が多くて大変だ」など、一般的な企業でよくありそうな事例を使用して、Power Automateで自動化/効率化する方法を紹介します。

全てのテーマにハンズオン演習が用意されているため、Power Automateを操作したことが無い人も安心して、一つ一つしっかりと操作方法や考え方を学ぶことができます。

CTC P606



初回開催

9/3
(火)

Power Platform でクラウドフローをつくる PL-7002 Power Automateを使用して自動化されたプロセスを作成および管理する (Microsoft認定トレーニング)

コースコード P912 価格¥71,500(税込) 期間 1日間 (09:30~17:30)

このコースでは、Microsoft Power Platform を使用してビジネス タスクとプロセスを自動化するためのローコード テクニックを使用してクラウドフローを作成する方法についてハンズオンを通して習得します。

このコースは、Microsoft 認定コースとして実施されます。Microsoft Applied Skills 資格証明に対応したトレーニングとなります。

CTC P912



Microsoft トレーニング Power Automate、Power Apps

初回開催

9/18
(水)

はじめてのローコードアプリ開発 Power Appsによる業務アプリ開発入門 (CTCTオリジナルコース)

コースコード P607 価格¥77,000(税込) 期間 1日間 (09:30~17:00)

本コースでは、Microsoft Power Appsでアプリを開発するための基本的な知識と技術を学習します。具体的には、ExcelやSharePointリストからデータ連携させたアプリと、ゼロから開発を行う空のキャンバスアプリの作成方法を学び、業務効率化に役立つ実用的なアプリケーションを自分で構築できるようになります。

Power Appsは代表的なローコード開発ツールの1つです。ノーコードツールではないため少しはコードの記述が必要になりますが、コードと言ってもExcelの関数に似た関数や、それを少し発展させた関数です。とはいえ膨大な関数があるため、どの関数がよく使用されるのか、どんな時にどんな処理を加えると使いやすいアプリになるのか、など、業務アプリ開発に直結する点を押さえて効率的に学習を進められるように構成されたコースです。

CTC P607



初回開催

11/5
(火)

Power Platform でローコード・アプリケーションをつくる PL-7001 Power Appsを使ったキャンバスアプリの作成と管理 (Microsoft認定トレーニング)

コースコード P911 価格¥71,500(税込) 期間 1日間 (09:30~17:30)

このコースでは、Microsoft Power Platform を使用してDataverse にデータモデルを実装し、このデータソースからローコード テクニックを使用してキャンバス・アプリを作成する方法についてハンズオンを通して習得します。

このコースは、Microsoft 認定コースとして実施されます。Microsoft Applied Skills 資格証明に対応したトレーニングとなります。

尚、このコース(PL-7001)は、リレーショナルデータベースの知識があることを前提にした Power Platform 製品をご紹介します。

CTC P911



初回開催
11/11
(月)～

シスコデータセンターテクノロジーの入門コース
Understanding Cisco Data Center Foundations (DCFNDU)
(Cisco認定トレーニング)

コースコード N700 価格¥550,000(税込) 期間 5日間 (09:30～17:30)

DCFNDUはエントリーレベルのデータセンターの技術習得に最適なコースです。ネットワーク、仮想化、ストレージエリアネットワーク、ユニファイドコンピューティングなど、シスコのデータセンター技術を理解するために必要な基礎知識とスキルを習得します。

CTC N700 🔍

開催予定
企画

シスコデータセンターテクノロジーのコアスキル習得
Implementing and Operating Cisco Data Center Core Technologies (DCCOR)
(Cisco認定トレーニング)

コースコード N703 期間 5日間 (9:30～17:30)
価格 試験バウチャーなし ¥722,700 試験バウチャー付 ¥660,000 (税込)

本コースはデータセンターのサーバコンピュータ、LAN、SAN インフラストラクチャの実装に必要なスキルと技術を習得します。

また、データセンターにおける自動化とセキュリティのポイントについても学習します。

Cisco MDSスイッチおよびCisco Nexusスイッチ、Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) Bシリーズブレードサーバ、Cisco UCS Cシリーズラックサーバなど、シスコデータセンターのインフラストラクチャの導入、セキュリティ、運用、保守についてハンズオンを通して学習します。

CTC N703 🔍

ますますトレーニング充実！
Cisco、Juniper

次回開催
8/15
(木)～

はじめてのJunos OSオペレーション&ルーティング
Junos Basic & Routing
(Juniper認定トレーニングカスタマイズ)

コースコード NS51 価格¥154,000(税込) 期間 2日間 (09:30～17:00)

本コースは、Juniper Networks社ネットワークデバイスに搭載されているOSであるJunos OSの基本的な概念や操作方法から、スタティックルートやダイナミックルートの設定方法、ルーティングポリシーまで習得できるコースで、初めてJunos OSを操作する方に最適なコースです。

2日間の講義と実機による演習を行うことで、Junos OSの基本的な操作方法からJunos OSでのスタティックルートやダイナミックルート、ルーティングポリシーの設定方法を効率よく習得できます。

Juniper Networks社認定資格「JNCIA-Junos」を受験する方が、その準備をするためのコースしてもご利用いただけます。

CTC NS51 🔍

その他のニュース
コースに関するお知らせ

**CTCT主催トレーニング
開催スケジュール公開 (2024年12月末迄)**

CTC教育サービスが主催している研修の2024年10月から12月までの開催日程を公開しました。

入門コースから応用コースまで幅広い研修を取り揃えておりますので、ぜひ受講をご検討ください！

皆様のご受講をお待ちしております。

<https://www.school.ctc-g.co.jp/>

特集

Power Automate を活用して、 業務の自動化を行おう！



同じ作業や単純作業の繰り返しで疲れている方！
ミスの発生が怖い…作業が溜まっていく…とお悩みの方！

そんなあなたに、Power Automateをお勧めします！

Power AutomateはMicrosoftが提供するツールで、様々な作業を自動化してくれる便利なサービスです。メールやフォルダの整理、特定のタイミングでの通知、データ反映など、毎日のルーチンワークを自動でこなしてくれます。これにより、あなたの貴重な時間を節約し、もっとクリエイティブな作業に集中できるようになります。



すごく気になる！詳しく教えて！

クラウドフローとデスクトップフロー

Power Automateには2つの主要なフローがあります。クラウドフローとデスクトップフローです。

クラウドフロー

クラウドベースのサービスやアプリ間の連携を自動化するフローです。例えば特定のメールが届いたら通知を送る、データをSharePointに保存するなどです。利用にはMicrosoft 365のアカウントが必要なので、利用可能かどうか会社に確認してみましょう。

デスクトップフロー

こちらはRPAの一種で、PC作業を自動化します。例えば複数のExcelのデータをコピーして1つのExcelにまとめて貼り付ける、Excelの内容をWebシステムに登録するなど、私たちが普段行っている作業の自動化です。なんと、Windows10/11ユーザーであれば無料で使用することができます。

これらPower Automateを利用して、業務の効率化/自動化ができるんです！



便利そうだけど、設定とか難しいのかな？
プログラミング経験もないし…



これらフローの設定はプログラミングの知識が無くても簡単に行えるんです！

ノーコード、ローコードで簡単にフロー作成

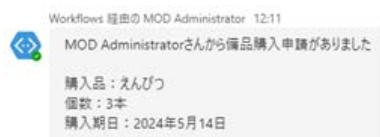
Power Automateの素晴らしい点の一つは、プログラミングの知識がなくても、ノーコードまたはローコードでフローを作成できることにあります。専門的な技術がなくても、誰でも簡単に自動化を始められるのです！

ノーコードとは、ドラッグ&ドロップやクリック操作でフローを作成していくやり方です。ローコードとは、カスタマイズのために少しだけコードを記述するやり方です。ただしExcelのif関数やvlookup関数のようなシンプルなコードが多く、初心者でも簡単に始めることが可能です。

例えば右の図は、「フォームで申し込みがあった場合、送り主の情報を取得し、タイムゾーンを日本時間に変換して、Teamsで通知する」といった処理をフローにしたものです。アクションの一覧メニューから、必要な処理をドラッグ&ドロップで選ぶだけで、簡単に登録できます！ Teamsに送るメッセージ内容は、下記のように登録します。繰り返しになりますが、基本はドラッグ&ドロップ、もしくはクリックです！操作方法を理解すれば、本当に簡単にフローを登録できるんです！



※実際にTeamsに送られたチャット



実際の利用者の感想

私自身もPower Automateを使ってみました、その効果に驚かされました。毎日行っていた社内申請の対応や、各種書類の作成といった作業が、自動化のおかげでわずか数秒で完了するようになりました。また、繰り返しの作業や単純作業から解放され、ミスも減少しました。空いた時間で、より生産的な時間を過ごすことができるようになります！！

業務の自動化は、今やビジネスの必須項目となりつつあります。Power Automateを使うことで、時間の節約はもちろん、作業の正確性も向上します。ノーコード、ローコードで誰でも簡単に始められるので、まだ試していない方は、ぜひ一度試してみてください。

Power Automate / Power Apps 研修 好評定期開催中！

Power Automate による業務自動化入門

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/P606.html>

期間: 1日間(9:30~17:00) 価格: ¥77,000(税込)

「自分ひとりでゼロから始めるのは難しそう…」という方におすすめです。

Power Automateのクラウドフローとデスクトップフローの基本的な使い方や重要ポイントを、1日という短期間で習得できるコースです。

Power Apps による業務アプリ開発入門

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/P607.html>

期間: 1日間(9:30~17:00) 価格: ¥77,000(税込)

Power Automateだけでなく、Power Appsも併せて活用することで、もっと業務効率化の幅が広がります。Power Appsはローコードで業務アプリを作成するためのツールです。これにより、さらに多くの業務プロセスをデジタル化・自動化することができます。



クラウドデータレイクの魅力

ビッグデータを無駄なく活かす仕組みを知ろう (全3回)

第1回

データレイクってどんなもの？



本コラムでは、データ分析や機械学習の実現するためのデータ基盤として注目されている「クラウドデータレイク」の魅力を数回にわたって紹介します。第1回目では、クラウドが付かない「データレイク (Data Lake)」とはどんなものなのかを説明します。

まず、データレイクの活用例であるBI(ビジネス・インテリジェンス)を見ていきましょう。



BIでデータドリブンな経営を実現

DX(デジタル・トランスフォーメーション)の事例として、BIが注目されています。BIとは、企業が蓄積している様々なデータを分析・活用し、経営や各部門の意思決定に役立てる手法です。

例えば、作業服大手のワークマンでは、2012年からExcel 使ったデータ活用を社員一人一人が実施し、販売実績や業務効率の向上に役立てています。その結果、14期連続で売上高が過去最高を更新するという大躍進をとげました。まさに「BIを活用したデータドリブンな経営戦略」の成功例です。

そして、効果的なBIを実現するためには適切なデータ分析基盤が必要です。



データ分析基盤の構造

データ分析基盤は、3つの要素で構成されています。

- ・ データレイク: データを保存
- ・ データウェアハウス: データを加工
- ・ データマート: データを陳列



それぞれの役割を説明します。

データレイクでは、様々なソースから収集した多様なデータを”未加工のまま”保存します。雨や川の水を貯めておく湖のように、様々な水源(データソース)から流れ込んでくる多様なデータを蓄積する「データの貯蔵庫(湖)」がデータレイクです。

データウェアハウスでは、データレイクの未加工のデータを、分析できるように加工(=正規化)し保存します。ウェアハウスとは倉庫のことです。素材や部品を加工し箱につめ倉庫内の棚に分類して格納しておくように、データを加工して分析しやすいように正規化し保存しておくのがデータウェアハウスの役割です。

最後のデータマートでは、データウェアハウスのデータを特定の目的や用途ごとに整理し、分析しやすいように個別に分けて保存します。ここで言うマートとは、八百屋や魚屋といったニーズごとの小売店のことです。料理を作るために巨大な倉庫に赴き、目的の食材をイチから探し出すのは大変です。なので、キャベツが欲しいなら八百屋に行く、魚屋に行けば三枚おろしのサマが手に入る、といった具合に小売店が重宝されます。それと同じように、データマートで目的や用途ごとにデータを事前に整理・加工し可視化しておくことで、データ分析を素早く行えるようになります。



データレイクの必要性

データ分析基盤でデータレイクが必要とされる理由は2つあります。

1) データ多様性への対応

データには、構造化データと非構造化データの2種類があります。

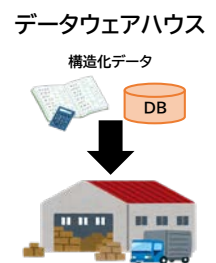
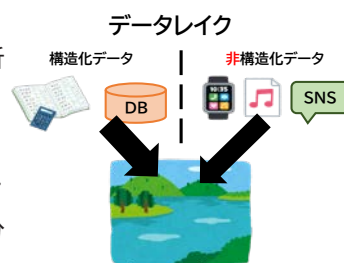
- ・ 構造化データ : 一定の形式で整理され、それぞれ関連性をもったデータ
- ・ 非構造化データ: 形式がバラバラで、データ間の関連性が薄いデータ

	構造化データ	非構造化データ
特徴	データ形式や関係性が明確に定義済み	データ形式が一定ではないデータ間の関連性が薄い
例	帳簿データベース、顧客名簿、CSVデータなど	音声、画像、動画、IoT機器、SNSの書き込みなど
メリット	事前に整理済みなので、分析や検索が容易	多種多様なデータソースから取得可能
デメリット	事前にデータ形式の定義が必要 →新しいデータソースの追加に時間がかかる	データ形式が一定でないで、データの分析や管理が大変

データレイクでは、構造化データと非構造化データの両方を一元的に保存します。データウェアハウスでは、基本的に分析用に整理された構造化データのみ保存し、多様なデータは保存できません。

「ビッグデータ」という言葉が登場して10年以上たちますが、IoT機器の普及やソーシャルメディアの発展にともない、データ分析の対象となるデータは、ますます多種多様になっています。例えば、スマートウォッチの活動データを基に運動量や睡眠時間を分析したり、Instagramのトレンドやいいね数を指標にエンゲージメント率の算出したり等、データソースの多様化やその分析の需要は、拡大し続けています。

それらの必要とされるあらゆる多様なデータを、ファイル形式やフォーマットを問わず、一元的に格納・蓄積するのがデータレイクです。



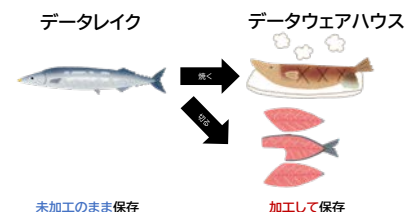
2) 未加工の「生データ」を保存

データレイクでは、多様なデータソースから集めた膨大な生データを加工せず、「オリジナルな形式のまま保存」しています。そのため、柔軟性が高くさまざまな分析や処理にデータを利用できます。

データ分析を魚の調理で例えると、

- ・ データレイク : 生魚をそのまま保存
- ・ データウェアハウス: 目的ごとに魚を調理してから保存

という違いがあります。



生魚のまま保存しておけば、新たなニーズ(例:刺身を食いたい)や新しい手法(例:真空調理)が登場した際に、慌てることなく対応可能です。

それと同じように、生データをデータレイクに保存しておけば、新たなデータ分析ニーズやデータ分析手法にも柔軟に対応できます。



データレイクの”沼化”に注意

最後にデータレイクを扱う際の注意点を紹介します。

データレイクの対義語に「データスワンプ(Data Swamp、スワンプ=沼)」があります。

- ・ データレイク:水が澄んでいる湖のように、どのデータがどこにあるのが明確で、必要なデータをすぐに取り出せる状態
- ・ データスワンプ:水が濁っている沼のように、どのデータがどこにあるのか不明確で、必要なデータをすぐに取り出せず、データが本当に存在するかどうかすら把握できない状態のデータレイク

前述したように、データレイクには多様な生データをそのまま保存できます。ですが、「とりあえず何でも入れておこう!」と適切な管理手法などを一切考慮せずに単にデータを保存しているだけでは、ただデータが入っているだけで取り出すことができない、価値のない「沼」になってしまいます。

データレイク



水が澄んでいて、
データをすぐに取り出せる

データスワンプ



水が濁っていて、
データをすぐに取り出せない

データレイクを沼化させないためには、以下の2点の維持管理が必要です。

1) メタデータとデータカタログによる、データの検索性の維持

データレイクに保存する際に「それがどんなデータなのか? (=メタデータ)」も一緒に保存してください。

また、データソースや粒度、種別、形式などの属性もメタデータとして記録して適切なタグを付けて整理しておきます。

そして、メタデータを管理する「データカタログ」を導入し、

- ・ どのデータがどこにあるのか?
- ・ どのデータが最新のもののなのか?

等、データを適切に整理・分類し、データをすぐに取り出せる状態を維持してください。

2) 定期的なデータクレンジングによる、データの品質・信頼性の維持

データレイクを定期的に掃除して、ゴミや泥を定期的に取り除くのがデータクレンジングです。

具体的には、

- ・ 半角数字と全角数字の混在の解消(128と1 2 8 → 半角の128にそろえる)
- ・ 商品名や企業名の表記ゆれの統一化(Microsoft とマイクロソフト、MS → マイクロソフトに統一)
- ・ 和暦表記を西暦表記に変更(令和6年 → 2024年に変更)

等を定期的の実施し、保存データの品質・信頼性を落とすことがないように気を付けましょう。



次回予告

「クラウドデータレイク」を理解する前提として、まずはクラウドが付かない「データレイク」を紹介しました。

次回は「データレイクをクラウド上で構築・運用する必要性」を解説する予定です。

参考文献: Rukmani Gopalan (著), 丸本 健二郎 (監修), 長尾 高弘 (翻訳) (2024)

『クラウドデータレイク ―無限の可能性のあるデータを無駄なく活かすアーキテクチャ設計ガイド』 オライリー・ジャパン

著者: 平野幸次

開発実務経験を活かしたトレーニングが好評の仮想化分野・データベース分野の講師。
講義中も常に会場全体を見渡し、忍耐強く根気強く指導する姿に受講者からの信頼も厚い。

クラウド、データサイエンス研修 好評定期開催中！

クラウド概要 ～「なんとなく知っている」を「はっきりわかる」へ～

期間 1日間 (9:30～17:00) 価格 ￥60,500(税込)

様々なビジネスシーンにおいて利用が拡大しているクラウドの基礎知識を習得します。

本コースでは、クラウドコンピューティングとは何か、やメリット/デメリット、どのようなサービスが利用できるか、などを紹介します。また、代表的なパブリッククラウドサービスの特徴を事例を交えながら活用方法を紹介します。

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/CL100.html>

ゼロから始めるデータサイエンス ～DS検定リテラシーレベル対応講座～

期間 2日間 (9:30～16:30) 価格 ￥108,900(税込)

インターネットやビッグデータの広がりと共に、多種多様なデータが収集され蓄積されるようになりました。これからの時代を生き抜くためには、このたくさんのデータを正しく集め、正しく分析し、正しく利用することが求められます。

本コースでは、データサイエンティストに求められる基礎スキルを、2日間の講座で分かりやすく丁寧に解説します。統計の基礎知識だけでなく、データを収集するときの注意点や分析のポイント、そしてその後の利用や扱い方について、具体的に実践的な内容を扱います。データサイエンティストとして活躍するための基礎力はもちろん、今の時代を生きるすべての人に必要な「データを扱う力」を養う事を身に着ける手助けになります。「与えられた情報を見るだけ」だった状態から、「その情報の裏に潜む何か」を見つけられるようになります！

また本コースのカリキュラムは、データサイエンティスト検定リテラシーレベルのシラバスに沿った構成となっているため、試験を受験予定の方にもおすすめのコースです。(シラバスver5対応)

※本コースはデータサイエンス協会の監修済みコースです。

<https://www.school.ctc-g.co.jp/course/DIL003.html>

お問合せ先

CTCテクノロジー株式会社

ラーニングソリューション営業・企画部

〒105-6911 東京都港区虎ノ門 4-1-1 神谷町トラストタワー

TEL 0120-667230

(9:00～12:00 土日祝を除く)

WEB

<https://www.school.ctc-g.co.jp/>